



大阪府20世紀美術コレクション

須田剋太展

抽象 | 具象

本展は、大阪府が所蔵する美術作品「大阪府20世紀美術コレクション」の中から、戦後関西で活躍した画家 須田剋太(1906-1990)のグワッシュ(不透明水彩絵具)作品をご紹介します。

1906年に埼玉県吹上町(現 鴻巣市)で生まれた須田は、1941年頃に関西へ移住し、当初は具象画を描いていましたが、画家である長谷川三郎との出会いをきっかけに、1950年頃から抽象表現へと邁進していきます。

1952年には現代美術懇談会に参加。また、団体としては国会会に参加しながらも、これに囚われることなく津高和一、吉原治良、森田子龍など多くの作家、画家、書家たちと交流しながら関西の現代美術界を牽引するひとりとなりました。

その須田に、1971年に『週刊朝日』より、作家の司馬遼太郎による『街道をゆく』の挿絵制作の話が舞い込みます。1950年以降、具象画から離れていた須田ですが、この依頼を快く引き受け、その後は具象と抽象の両方を手がけることとなります。晩年には陶や書の作品をも手がけるなど、1990年に亡くなる直前まで精力的に作品制作を続けました。

本展では、ルーム1で『街道をゆく』挿絵原画を、ルーム2で抽象作品をご覧ください。

どちらもグワッシュで制作された作品ですが、その画面からはキャンバスやドンゴロスをベースとした油彩画と変わらない姿勢をみてとることが出来ます。

様々な思想・哲学を取り入れ、それらを独自の解釈や組み合わせにより言語化・造形化してきた須田剋太。具象と抽象を往き来しながら、自身の表現を生涯に渡って追求する中で生み出された作品世界をお楽しみください。

○大阪府20世紀美術コレクション

大阪府は、国内外の20世紀後半に生まれた美術作品を中心に、約7900点に及ぶ様々な美術作品を所蔵しています。その作品は、「関西の現代美術作家」「世界の現代美術(大阪トリエンナーレ)」「現代版画」「現代写真」を中心に、ポスターや陶磁器、書など多岐にわたります。

○司馬遼太郎『街道をゆく』

『街道をゆく』は、1971年から1996年まで、25年以上にわたって『週刊朝日』に連載された、作家 司馬遼太郎による紀行です。須田剋太は連載開始から1990年までの約20年間に渡り、司馬氏に同行してスケッチを重ね、『街道をゆく』の挿絵を制作しました。